

第11章 密集の必要性

条件4:

十分な密度で人がいなくてはなりません。なんの目的でその人たちがそこに居るかは問いません。そこに住んでいるという理由でそこにいる人々の人口密度も含まれます。

サミュエル・ジョンソン

「利便性を生み出すのは密集なのである」

ジョン・H・デントン

「郊外部に存在できる唯一の有効な経済需要は、多数派向けのものだけ」

高い居住密度は正統派都市計画や住宅理論において悪者にされる。

高密:面積あたりの住居が多い

過密:個々の住戸に人が多すぎる

高密な地域より低密な地域で過密が見られることが多い

○十分な住戸数に十分な人が住めば
→多様性は生まれ、愛着と忠誠を発展させる
→選択肢のある人々の忠誠心を惹きつけて維持するような近隣

○住戸密度が低いところで起こる過密は
→陰気で破壊的
→衰退して、放棄されたり、過密になったり

活気ある多様性と公共生活が生まれる水準

「どっちつかず」密度

準郊外の特徴と機能が失われる水準

密度を徐々に連続的にあげるプロセスそのものが規格化なしで最終的に高い密度を可能にしてくれる

こうした装置ー 多数の街路
活気ある場所の活気ある公園
混在する各種の非居住用途
住戸そのものの大きなバリエーション

高い建蔽率からの解放よりはるかに多くのものを提供

十分に高密であり多様性のある形で集中している
ことで私たちは都市生活を推進できる

